

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■88■

群馬で初めて梅や桜の季節を迎えるに当たり、楽しみなものがあつた。焼きまんじゅうだ。「群馬の祭りに露店が必ず出る」の類が焼きまんじゅうの定番の解説だ。外で花を見ながら食べるのは良いものだろう。

県の内と外で認知度のギャップが大きい食べ物として、焼きまんじゅうは全国一を争うのではないか。県内は方々で売られ、過去「焼きまんじゅうガイドブック」まで出ており、約80店舗が載っている。何と約200店舗回った方もいるようだ。露店ののれんには「上州名物」の4文字

## 焼きまんじゅう

# 県民の食のふるさと

が染め抜かれ、その特別な地位を感じさせてくれる。一方で県外には埼玉や栃木などに数えるほどのようだし、私は群馬に来るまで存在を知らなかった。ち

阪では「お好み焼きとご飯」といった主食の重ね食文化を回避した私も、群馬にコミットするとの決意も新たに焼きそばとともに注文した。先に出る焼きまんじゅうを食べながら待つ時間は存外楽しい。そして焼きそばまで食べ終えた時、群馬県民に一気に近づいた気がしたが、勘違い？

家計調査(2020年、都道府県庁所在市・政令指定都市)を見ると、前橋市は世帯当り年1234円で全国4位！やや差はあるが、2202円で1位の福島市をうかがう位置にいる。興味深いことに、他の甘い菓子でトップ10入りは少ない。特別甘党でないとするれば何が理由なのか。

群馬で生まれ育つとそれぞれに好きな焼きまんじゅうができ、たまに食べたくなると聞く。子や孫とともに食べ、彼らがまた好きになるのだろう。県民が焼きまんじゅうを

なみに、のれんは市販されているようで、群馬ファンの証しとして観賞用に買ってみたい衝動に駆られてしま

焼きまんじゅうの購入額は、数字はなくても群馬が全国一だ。ではまんじゅう全体はどうだろう。こんなときよく使われる総務省の

群馬は古くからの小麦の産地。農家では、田植え後の農休みや七夕などの行事でまんじゅうを作り、食べていたという。そんな風習

頬張るときは一瞬、たどった人生や遠い昔の群馬の記憶が通り過ぎているのかもしれない。

驚くのは焼きまんじゅうを出す食堂もある

渡辺真吾(わたなべ・しんご) 1972年生

1972年生

ことだ。主食級のボリュームがあるのに、主食とともに注文される。以前の勤務地、大



まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米シシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。